

トンボの研究 パート 5

松山市立桑原小学校 第5学年 宮 城 宏 汰
指導教諭 宮 内 有 一

1 研究の動機

ぼくは、トンボが大好きです。春から秋にかけて、ぼくの家の上にはトンボが飛び回ります。そんなトンボを見ていると自分が住んでいる町にどんな種類のトンボが飛んでいるか調べたくなりました。色々なトンボが見られるとうれしいので毎年出かけています。

ぼくは、ずっと愛媛県松山市に住んでいます。ぼくの町は、昔に比べて生き物が住める田んぼや池や川がだいぶ減っているそうです。もう、見られなくなっている生き物がたくさんいることも父に教わりました。今見ているトンボも、ぼくが大人になるころには見られなくなっているかもしれません。大好きなトンボたちが、ぼくが大きくなっても今と同じように見えるための努力を町のみんなといっしょに続けることができれば、トンボたちは今と変わらない様子で町を飛び回ることができると思います。

ぼくの住んでいる町の人たちがトンボたちを大切にしてくれるように、トンボの本を作りみんなに見てもらえるようにしました。これがぼくの「トンボの研究」のはじまりです。

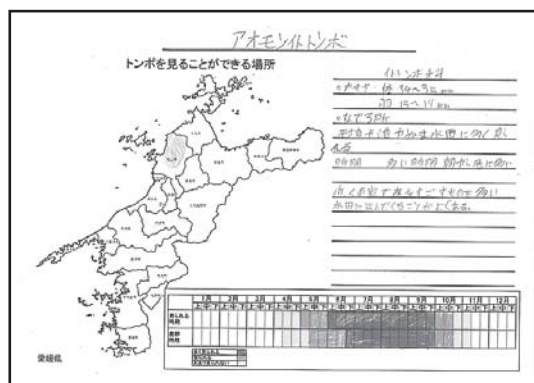
2 研究の実際

(1) トンボの採集をする。

つかまえたトンボは、家に持って帰って図鑑の写真で名前を調べました。オスカメスカも調べました。つかまえたトンボは写真をとって、すぐに逃がしてあげました。愛媛県では約89種類のトンボを見ることができるそうです。中には数少なくなったトンボもありました。ぼくは、この夏にできるだけ多くのトンボの仲間に出会えるようにほとんど毎日つかまえに出かけました。

(2) トンボの種類を調べ、まとめる。

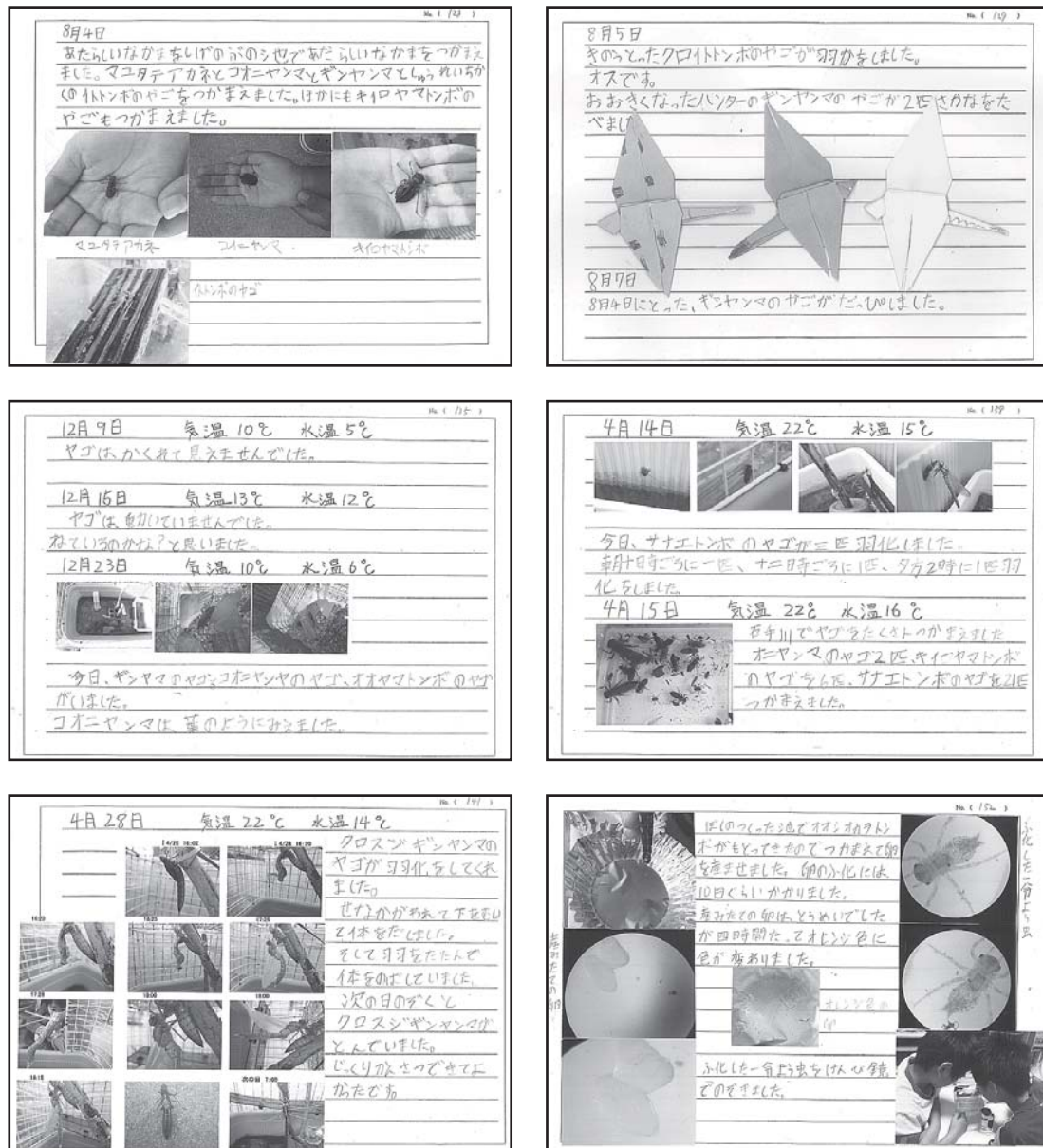
ぼくが幼稚園の年中のときから、小学5年生の夏までに調べた記録をまとめました。記録には「大きさ」「住んでいる所」「見つける時間」「特徴」などを中心に今年は43種類をまとめました。今後もまだ続けるつもりです（資料1）。



(資料1) 例：アオモンイトンボ

- (3) ヤゴを育て、観察日記にしたり育ててわかったことをまとめたりする。

トンボについて、色々な図鑑や本を読んで調べましたが、冬の過ごし方について詳しいことがよくわかりませんでした。そこで自分で育てて調べてみることにしました。ぼくの「ヤゴの観察日記」の挑戦が始まりました（資料2）。



(資料2—1) ヤゴの観察日記の一部

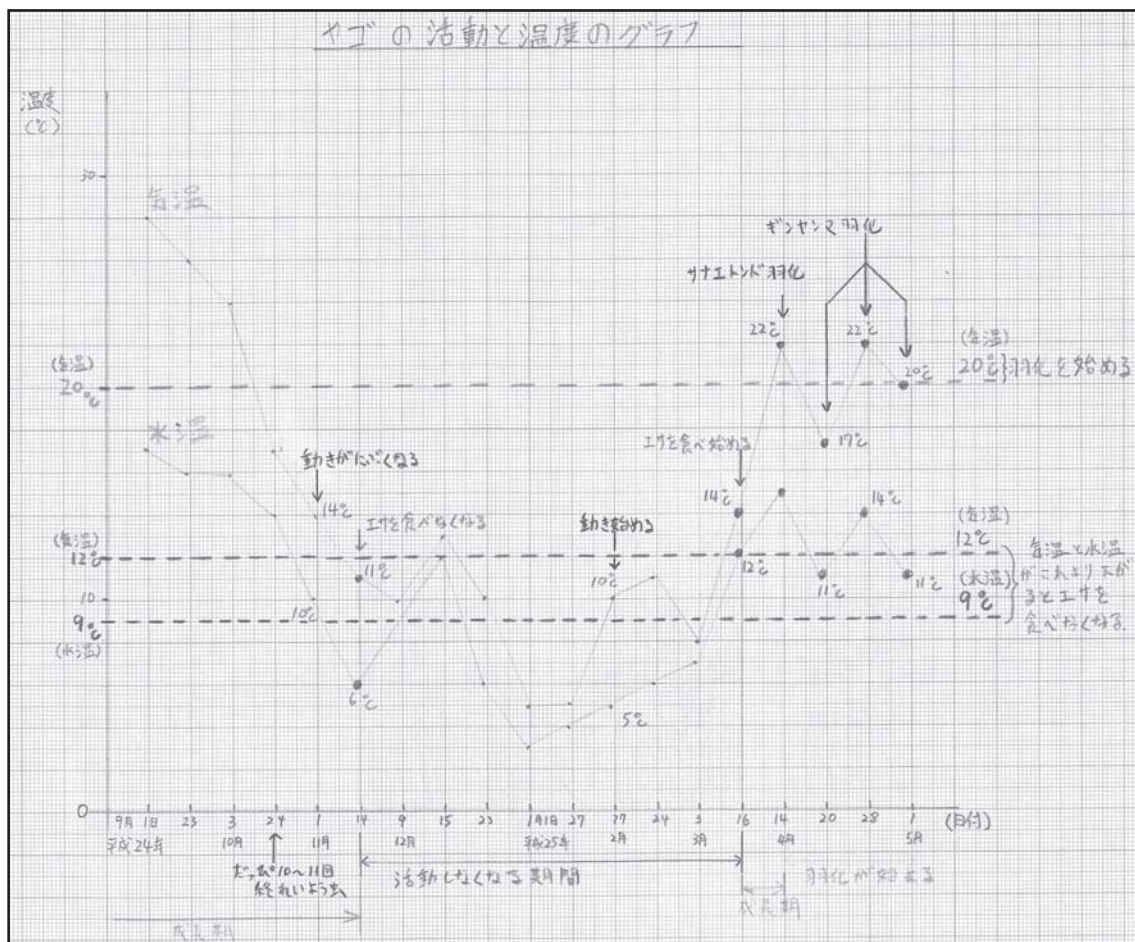
ヤゴは気温が12℃、水温が9℃より下がると動きが鈍くなりエサを食べなくなりました。冬は水の底の石やどろの中でじっとして動かなくなりました。

指でつつくと動くので、じっとしているだけで冬眠しているのではないようです。冬は、川や池の底でかくれてじっとしているだけで春が来るのを待っているみたいでした。春が来て水温が9℃より上がると動きだしてエサを食べ始めました。エサをいっぱい食べて大きくなり、気温が20℃水温が12℃より上がる日が続くとヤゴたちは羽化を始めてトンボになっていきました。

ヤゴの由来は「ヤンマの子ども」から「ヤコ」が「ヤゴ」となったといわれています。



(資料2-2) ヤゴの羽化の様子



(資料3) ヤゴの活動と温度の関係

(4) 研究してわかったことをまとめる。

① トンボが見られる時期を調べて

ぼくは、幼稚園のころから今までトンボが見られる時期をずっと調べてきました。毎日トンボを見ていると、種類ごとに見られる時期に特徴があることに気が付けました。種類によって長い期間見られるトンボや短い期間しか見られないトンボがいました。長い期間見られるトンボは夏や秋のトンボが多く、期間が短いトンボは春先に見かけたものでした。

大型のヤンマ類などは長い期間は見られません。小型のトンボは長く見られるものがあります（資料4）。

[illegible][illegible]

今年、トンボをつかまえて新しい種類のトンボが4種類増えました。去年は39種類でしたが今年のをあわせると43種類になりました。つかまえてはいないけど他の種類のトンボもいました。

愛媛大学の昆虫展に行きました。そこでぼくは、愛媛県で数少なくなったトンボの仲間たち（レッドデータブックにのっているトンボ）の標本を見ることができました。色々な種類のトンボたちがいなくなってしまうそうになっているのを知って驚きました。トンボが減った原因は、人間がヤゴやトンボの住むところを無くしてしまったことなんだそうです。このままではレッドデータブックのトンボたちは、愛媛県で見られなくなってしまうそうです。

ぼくは、トンボの数が減るのを止めるためにトンボの住んでいる場所を残していくことが必要だと思います。